

第3表 直播における敷ワラおよびポリマルチの効果

試験区	項目	全重 g	球重 g	球径 cm		芯長 cm	腐敗率 %	不結球 率 %	10a当 収量kg	品質
				縦径	横径					
	敷ワラ標準量 (a当17kg)	571	298	9.4	12.8	2.7	32.2	23.6	878	劣る※
	敷ワラ (標) + ポリマルチ	591	314	10.4	13.9	3.2	20.0	2.5	1,622	良
	敷ワラ5割増	568	297	9.0	12.8	3.2	33.7	26.7	784	劣る※
	敷ワラ (増) + ポリマルチ	608	311	9.7	12.9	3.1	31.1	11.2	1,206	良
	ポリマルチ (黒)	624	315	10.4	13.8	3.2	20.4	5.1	1,565	良
	裸地	585	311	9.7	13.3	3.0	55.4	6.5	790	劣る※

は種期 7月17日 供試品種 グレートレークス366

※中肋突起、葉のよじれ等が発生

9. 県北地域におけるイチゴのマルチ栽培について

—農試県北分場—

1. 背景と特徴

近年、県北畑作地帯における商品生産農業の展開には見るべきものがあり、野菜作も著しく伸び、48年度の農業粗生産順位においては、米、タバコ、プロイラーに次いで第4位（比率11%）となっている。

このうちイチゴ栽培は久慈市、二戸市を中心に10ha程度であるが、消費の伸びと対応し、安定・多収技術体系の確立により、今後の増加が期待される。

当场においては、地域気象条件に適応した栽培法について、47年から3ヶ年、検討を加えてきたが、一応の成果を得たので透明秋マルチおよび全期黒色マルチ栽培法について普及上の参考事項としたい。

2. 技術内容

(1) 冷涼な気象下にある県北のイチゴ栽培にとって、マルチの使用は必須の条件といえる。

しかしながら越冬後もマルチ状態を継続すると開花期が早まり、ところによっては霜害による減収の危険を伴う。この点を解決するため、定植と同時に透明フィルムを被覆し、越冬前の生育を促進するとともに、翌春マルチを除去することにより、裸地状態で開花期を遅らせ、晩霜回避を計る。このような「透明秋マルチ」栽培により安定して多収を得ることが出来る。また開花期が2日ほど早まるものの全期黒色マルチ栽培も有効である。

(2) マルチ使用による増収効果は顕著であり、一果7g以上の上果でa当り150kg以上の目標収量を確保することは県北部においても可能である。

これは裸地に比べても透明秋マルチで89%、全期黒色マルチで80%の収量増となっており、また奇形果の発生も少く、品質の面でも有利である。

一方、透明秋マルチの開花期は全期黒色マルチに比べ2日、全期透明マルチに比べ4日程度遅れるため、霜害の確立も少いと言える。

(3) 県北におけるイチゴの定植期については、早期定植が望ましいが、育苗との関連から9月上旬が適当と考えられる。また9月20日以降になると花芽分化と重なり、減収はまぬがれない。

3. 普及上の留意点

(1) 実際の使用場面において、透明秋マルチ、全期黒色マルチの選択は地域の終霜日と開花期及び除草労力等の点を考慮して決める。

(2) イチゴは浅根性作物であり、塩類濃度障害に特に弱く、マルチを使用した場合「肥料やけ」を起し易いので定植時の施肥は遅くとも2週間以上前とする。

(3) (2)の点からも土壌診断を行う必要がある。

(4) 畦間除草は、定植活着後と翌春の2回それぞれ10a当り100gのシマジン水和剤を散布することによりほぼ完全であるが、秋マルチの場合、開花後敷ワラをする直前に一回、株間の手取り除草が必要である。

(5) 収穫時期が梅雨期と重なるため、果実の灰色カビ病の防除を徹底する。

4. 試験成績の概要

A 予備試験(S47) 供試品種：ダナー 定植期：9月21日

栽植様式：75×30cm 444株/a

第1表 収量調査

(S47)

区番号	項目 区名	開花期 (月日)	収穫期 (月日)	a当収量			上果率 (%)	小果率 (%)	奇形果 率(%)	1株当り 着果数 (ヶ)
				総重 (kg)	上果重 (kg)	同左比 (%)				
1	全期裸地	5.16	6.13	63	42	100	67	8.3	24.8	11.7
2	黒色マルチ	4	9	104	80	190	76	8.0	15.7	20.1
3	透明マルチ	4.26	5	65	53	126	81	8.3	11.0	12.5

B 本試験 (S48, 49)

- (1) 試験課題名 イナゴの栽培体系確立試験
- (2) 試験年次および場所 昭和48～ 岩手県立農業試験場県北分場
- (3) 試験方法 1) 供試品種: ダナー, 5～6葉苗を定植
 2) 栽培様式: $(\begin{matrix} 45 & + & 75 \\ & & 2 \end{matrix}) \times 30 \text{ cm}$ 556株/a
 3) 供試条件

	S48	S49
定植期	9月1日, 8日, 9日	9月5日
被覆条件	裸地, 透明秋マルチ, 全期黒色マルチ	裸地, 透明マルチ, 全期黒色マルチ, 透明秋マルチ
施肥量(kg/a)	N-16, P ₂ O ₅ -29, K ₂ O (イチゴ化成) (BMヨ-リン)	N-20, P ₂ O ₅ -29, K ₂ O-20 (ASU, BMヨ-リン)

(4) 試験結果

第2表 開花期調査

区番号	項目 区名 年度	開花期		収穫始	
		S48	S49	S48	S49
(1)	全期裸地	5.16	5.17	6.12	6.16
(2)	透明秋マルチ	.17	.16	.13	.12
(3)	全期黒色マルチ	.15	.13	.11	.12
(4)	全期透明マルチ	—	.12	.—	.12

第3表 県北4ヶ所における終霜日

	S46	S47	S48	S49	S50	平年値
軽米	5.18	5.28	5.25	5.7	5.11	5.12
久慈	.10	4.10	.24	.7	.8	(5.10)
二戸	4.28	5.28	.24	.7	.11	(5.10)
田山	6.1	6.1	.25	.11	.13	(5.20)

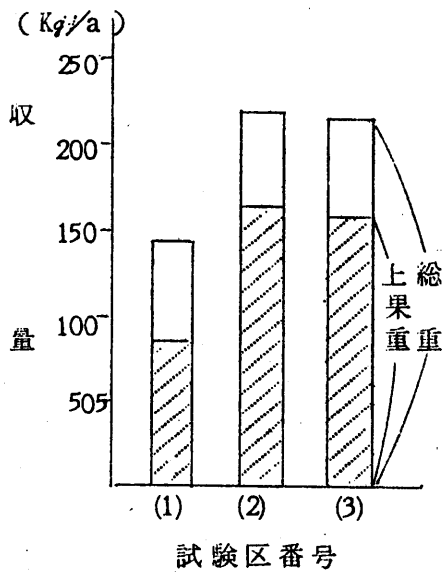
第4表 収量調査

(S48, 49 2ヶ年平均)

区番号	項目 区名	年次	a 当収量			上果率 (%)	小果率 (%)	奇形果 率 (%)
			総重 (kg)	上果重 (kg)	同左比 (%)			
(1)	全期裸地	48	128	83	100	65	23.2	11.2
		49	152	84	100	55	23.7	18.3
		平均	140	84	100	60	23.5	15.1
(2)	透明秋マルチ	48	249	177	213	71	24.8	1.1
		49	197	140	167	71	20.8	5.2
		平均	223	159	189	71	23.1	2.9
(3)	全期黒色マルチ	48	226	163	196	72	24.2	2.0
		49	190	139	166	73	19.4	5.0
		平均	208	151	180	73	22.0	3.3

注) 上果: 9g以上の正常果 小果: 7g以下の正常果+奇形果+病果
 奇形果: " 奇形果

第1図 被覆別収量(2ヶ年平均)



第2図 果級別比率(2ヶ年平均)

